

音楽科の実践

◆テーマ

創造性・主体性を育む音楽の学習活動について

～箏の合奏を通して～

◆本校の実践

全体研究主題『創造性に富んだ、未来を切り拓く生徒の育成～「主体的な学び」のプロセスモデル実現を目指して～』の実現のため、音楽科では「聴取活動による音楽的な感受を基にした、思考、判断、表現力等を育む授業づくり」という主題を設定し、2年計画で研究を行った。初年度は、生徒が「我が国の伝統音楽」に親しむことができるよう、生徒の興味関心が高かった器楽（箏）の活動を行った。ゲストティーチャーを招き、「さくらさくら」の正しい奏法（特に、「押し手（後押し）」、「引き色」、「かき爪」、「割爪」の4種類）を学び、その知識や技能を生かし、前奏や後奏、その他フレーズとフレーズの間、イメージする音を取り入れ「自分だけのさくら」を試行錯誤しながら演奏する姿が見られた。箏の様々な奏法を目と耳で感じ、学ぶことで、音色の違いを知覚し、楽曲の旋律に合わせてどのような音色を響かせたいのかについて思いや意図をもつことができるようになった。本年度は、昨年度の学びを更に発展させ、二人一組になり、旋律担当と、間を工夫する担当の両方を体験させ音を合わせることや、音色・旋律、リズム（間）などの音楽の諸要素を考えながら、音と音とのコミュニケーションである合奏の楽しさや喜び、そして中学校卒業後も興味関心をもって「我が国の伝統音楽」に親しむことのできる生徒を育成したいと考え授業を行った。

○研究内容

①それぞれの音楽の違いや共通点などを学ぶことを通して、思考力・判断力・表現力をより高めることのできるような
題材設定

・主体的に意欲をもって学習ができるような題材や授業の開発

②主体的な学びのプロセスモデルの作成

・ねらいや学習内容が整理できる言語活動やワークシートの工夫

・PDCA サイクルの中で、より主体的に学習ができるような授業づくり

③授業により育まれた資質・能力の見取りについての工夫と実践

・ワークシートの記述、仲間との交流による観察、ICT機器を活用し、生徒の表現活動の記録や分析などを活用した評価方法や評価規準の作成。



○成果と課題

成果・「日本らしさ」を音楽で表現しようと試行錯誤することにより、音楽に親しむ気持ちを育てることができた。

・音に対する意識が高まった。・「主体的なプロセスモデル」を実践することができた。

・二人で合わせる、音楽をつくりあげる（曲を仕上げる）うえで大切な事を学ぶことができた。技術の差はあったが、歩み寄り、教え合うことができた。

・学習班4名で常に活動していたので、互いにアドバイス、サポートすることができた。

・ロイロノートを使用することで効果的に生徒の活動を見取ることができた。

課題・表現したい思いがあっても、技術が伴わずに終わってしまうこともある。

・練習の過程で、調弦がずれてしまいそのままになってしまう。 ・姿勢が崩れる。 ・撮影時の工夫

◆参加者の皆さんと意見交換したいこと

「思いや意図」があってもそれを音で表現できない（技術が伴わない）生徒に対しての支援と評価について、また、生徒の創造性・主体性を育むために、どのような音楽の学習活動がされているのかなどをお聞きしたいです。